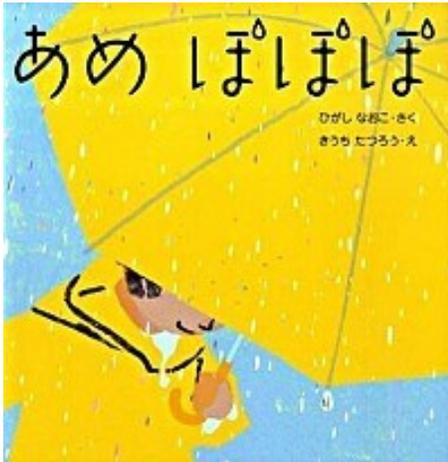


# 天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介 ♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪2017



『あめぼぼぼ』 ひがし なおこ／きく きうち たつろう／え  
(くもん出版 2009年出版)

この本に出会ったのは本屋さん。何気なく手に取り、表紙を開きました。その瞬間、虹色の楽しげな顔をした雨粒たちが目に飛び込んできて、とにかくその様子が鮮やかに心に映り、心を奪われてしまいました。

大人になってからの雨は、どちらかという鬱陶しい…でも、子供の頃は雨が降っても楽しかった。たとえ長靴に雨水が入ろうとも、じゃっぴじゃっぴと足を踏み鳴らしながら楽しく歩いた記憶がよみがえる。ああ、子供の頃に見ていた雨の風景はこんなに楽しいものだったかもしれない。

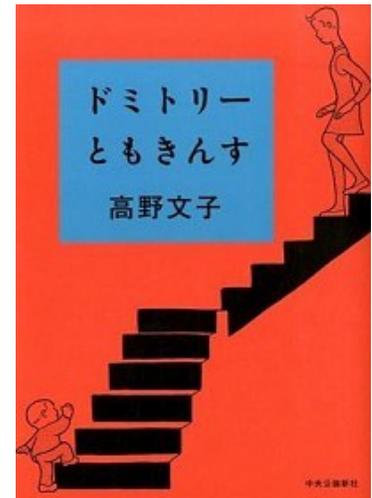
雨の日も悪くないと思わせてくれる一冊です。

## 『ドミトリーともきんす』

高野 文子 (中央公論新社 2014年出版)

何か読みたいなーと思いつつも、なかなか手を出せないのが4類の棚(自然科学系です)。漫画家・高野氏のこの本で、「これ読みたい!」「あっこれも気になる…」と一気に意欲が加速しました。(加速だけで終わらないようにしますね。笑)

マキノ君(牧野富太郎)やユカワ君(もちろん、湯川秀樹)が、うちの学生寮で一緒に生活していたら…という設定のこのマンガ。彼らの実際の言葉をもとに短いお話で作られています。一編の終わりにはしっかり著作物の案内も載っていて、その文の魅力に「へえ!」と思いながら、図書館にないかあれこれ検索しました。同じように自然科学の読書で迷っている方へ、入り口としてオススメしたい一冊です^^



## 『60歳からのシンプル満足生活』

三津田 富左子 (三笠書房 2006年出版)

私も60代になり終活を考えるようになりました。まだ健康には自信はありますが、どうしたら、日々楽しく、満足のできる生活を過ごせるのか考えるようになりました。

歳と共に体力が衰え、何よりも怖いのが認知症です。自分では絶対ならないと思っはいますが、こればかりは分かりません。そうならないためにも何か良い本はないかなと探していたところ、この本に出会いました。

この本は人生体験を元に女性の方が書かれた本ですが、読んでみますと、教訓・対応な1どが書かれており本当に私にとってはありがたい本です。

男性にも共通する部分が多々あります。人生の過ごし方はそれぞれ十人十色であります、この本に書かれているように、明るく、楽し

く、健康で悔いのない人生を過ごしたいものです。

共感するところが沢山ありますので、ぜひ読まれてはいかがでしょう?



### 『これがぼくらの五体満足』

先天性四肢障害児父母の会／編（三省堂 1999年出版）

人生の不可思議？人とは？人生とは？

幸福の価値観はそれぞれ異なる物があるが、人生生涯現役で何事にも向上心を持ち努力し一步一步前進して継続していくことの大事さを再認識させられました。

また相手(周り)への思いやりの気持ちを持ち、考え、行動することにより自分自身も成長し、社会全体の流れも多少なりとも変わっていくのでは、と考えさせられました。

子どもたちの将来の平和を願います。

### 『ご本、出しときますね？』

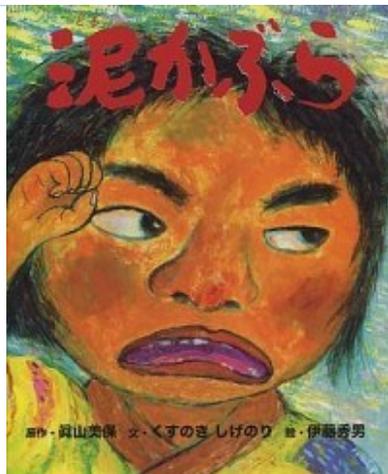
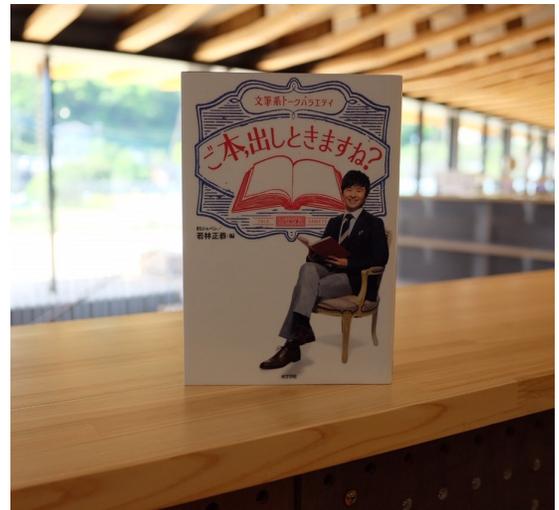
BSジャパン／編（ポプラ社 2017年4月出版）

小説を読んでいると、その作者にも興味がわきませんか？作家は変わり者…いやいや個性的な人が多いと聞きますし。

この本は作家の対談番組を書籍化したものです。毎回2人の作家の話を司会のオードリー若林さんがお聞きし、盛り上げ、作家の魅力にあふれた内容になっています。

真面目なお話あり、くだけたお話あり、作家の交友関係を垣間見ながらサクサク読めちゃう本です。対談ごとに作家がテーマに沿ったおすすめの本を紹介していて、それもまた興味深いものでした。

この本で気になる作家が増えたなら、それは新たな読書の世界への入り口になるのではないのでしょうか。ということで、こちらのご本、出しときますね。



### 『泥かぶら』真山美保 原作

くすのき しげのり／文 伊藤 秀男／絵（瑞雲舎 2012年出版）

10年以上前に、牛深で泥かぶらという演劇がありました。それを私は見ていませんでしたので、絵本があると聞いて読んでみました。とても感動して、泣いてしまいました。見た目は、泥のついたかぶらのようでも、やさしい心、人を思いやる心をもっていれば人として美しくなれる。自分もそうありたいと思いますが、なかなか難しいものです。

月に何回か読み聞かせをしているのですが、少し長いかなーと思いながら読んでいます。ある時、中学生に読み聞かせをしたのですが、先生が後ろで聞いて下さって、読み終わった後、「とてもいい本ですね、涙が出ました。」と言って下さった時、読んでよかったなあと心から思いました。他にもたくさんいい絵本がありますが、私は、この絵本をご紹介します。

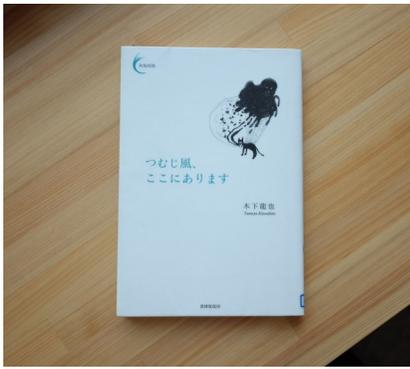
### 女清掃員探偵キリコシリーズ 近藤 史恵（実業之日本社）

清掃作業員キリコが日常の謎をクリーンにするミステリー物語です！

一見すると、清掃業者とは思えない派手な格好をした10代の女の子ですが、掃除の天才であると同時にオフィスを騒がす様々な謎をたちまちクリーンにしてくれます！

生き活きと仕事をするキリコちゃんがとても魅力的です！さっぱりしていて読みやすいので、ゆっくり読みたい時にちょうどいい一冊です☆(シリーズの最新刊は『モップの精は旅に出る』です)





### 『つむじ風、ここにいます』

木下 龍也 (書肆侃侃房 2013年出版)

俵万智さんに始まり、穂村弘さんなど、最近では若い人たちの歌集もたくさん出ています。その中でもお勧めしたい歌人、木下龍也さんのこのデビュー作です。

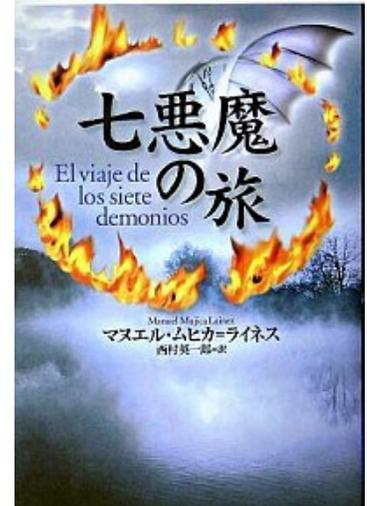
五七五七七、たった三十一文字で風景が見えたり、恋をしたり、笑ったり。若い感性でサラッとタブーに触れる歌は、彼ならではの作品。世界がひっくり返る視点を、是非体験してみてください。

### 『七悪魔の旅』 マヌエル・ムヒカ＝ライネス／著

西村 英一郎／訳 (中央公論新社 2005年出版)

「現実に疲れているのに、定時帰りを悪徳とする今どきの自立する女子のサクセスストーリーなど読みたくない。大河ドラマや朝ドラすら説教くさくて見たくない。」という気分の方は、立ち位置が全く違うラテンアメリカのエリート家庭に育った作家さんのファンタジーはいかがでしょうか。

キリスト教世界の七つの悪徳「倨傲」「貪欲」「嫉妬」「暴食」「憤怒」「淫乱」「怠惰」のそれぞれの盟主である7人の悪魔が、大魔王の命令で人間を墮落させるために旅に出る話です。それぞれの悪魔が大魔王の指定した人間を墮落させるために誇りと職務をかけて頑張ります。この世界では天使も悪魔も非常に勤勉で、天国も地獄も人手不足です。悪魔たちは頑張っているのに大魔王の査察や監視が入り、人間の影響で下級の悪魔が労働組合を作ったりします。悪魔の一人は報告書づくりに余念がありません。これじゃ日本の等身大サラリーマンと変わらないじゃないのかと思うか、いやいやこれはファンタジーに必要な最低限のリアリティだと思うのかはあなた次第です。



### 『1日5分 薬に頼らず血圧を下げる方法』

加藤 雅俊／著 (アチーブメント出版 2017年出版)

血圧高めは親からの遺伝だからと諦め、一度薬を飲み始めたら一生飲み続けなければならない、と、これまたずーっと諦めていた。

しかしこの本には、『高血圧にならない体になる・・・習慣』があり、降圧剤なるものは、スーパーにある、という。血圧のことを正しく理解し(自分の体をよく知り)体に良い習慣を作ってみようと思心したところですよ。

(速攻降圧ツボというのものもあるそうです、イライラしたら試してみよう！)



### 『夏と花火と私の死体』

乙一 (集英社文庫 2000年出版)

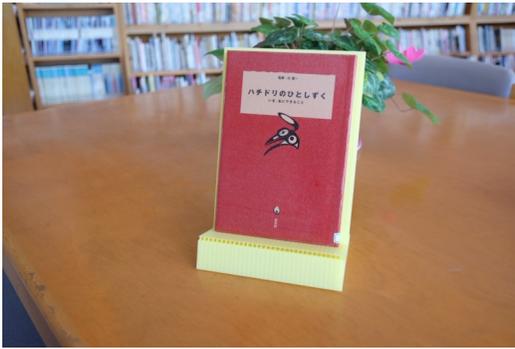
乙一先生の作品は「白乙一」「黒乙一」と分けられるほど、少しグロテスクな表現があったりするのですが、とても繊細かつ温かな作品ばかりだと思います。

こちらの本は、殺されて死体となった主人公の視点で物語が進んでいきます。この設定が実に面白く、始終ハラハラさせられます。

そしてなんと！この作品、16歳で書かれたデビュー作なのです。

乙一作品を読んだ事のない方は、まずこの本を読んで若き日の天才を実感してみてください。

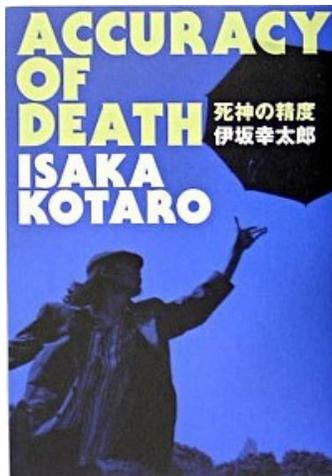
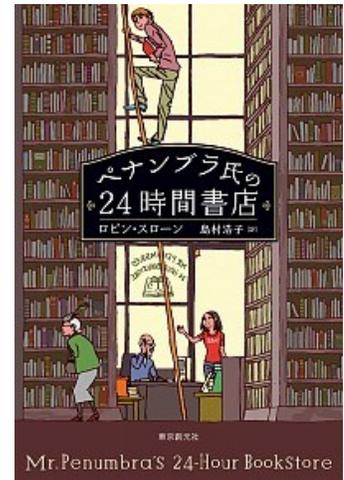




『ハチドリのはとしづくーいま、私にできることー』  
辻 信一／監修(光文社 2005年出版)  
これは、南米アンデス地方の先住民に伝わる17行のお話です。  
燃える森の火を消そうと、はとしづくの水を運び続けるハチドリ。  
”I am only doing what I can do.”  
『私は、私にできることをしているだけ。』  
私たちも、自分にできる「はとしづく」を。今できることは何だろ  
う…と考えさせられる一冊です。

『ペナンブラ氏の24時間書店』  
ロビン・スローン/著 島村 浩子/訳 (東京創元社 2014年出版)

天井まで届く壁一面の書架に整然と並ぶ、無数の本。  
本に携わる仕事をしていると、この上なく魅力的なシチュエーションから始  
まるこの話は、暗号で書かれた本をに始まり、500年にも及ぶ「謎」を経て  
「古い知識」「伝統的知識」を如何するかへと大きく飛躍します。  
暗号解読にGoogleとか駆使するあたり、個人的には「うーん…」と感じ  
ますが、それが今っぽいのかなあとも思います。  
“すべての本好き、読書好きに贈る冒険と友情、その他もろもろ盛りだくさ  
んの物語。”



『死神の精度』  
伊坂 幸太郎 (文藝春秋 2005年出版)

- ①CDショップに入りびたり、音楽をずっと聴いている
  - ②名字が町や市の名前
  - ③受け答えが若干ずれている
  - ④素手で他人に触ろうとしない
- そんな人が突然現れたら、死神かもしれません…  
死神とその調査対象の人間の6つの物語を集めた短編集。死神・千葉の調  
査で生死が決まる。クールでミュージックをこよなく愛する千葉が立ち会った  
調査対象の結末やいかに…

時間旅行者の系譜シリーズ  
『紅玉(ルビー)は終わりにして始まり』ケルスティン・ギア/著  
遠山 明子/訳(東京創元社 2013年出版)

普通的女子高校生(グウェン)と、性格悪いけどイケメンな相棒(ギデ  
オン)が、色んな時代にタイムトラベル??  
それぞれの時代の服装や背景も想像でき、勉強にもなる小説です^^  
全3作の間が変わっていく二人の恋の行方!さらに秘密結社が追い  
求める秘密も、タイムトラベルによって明かされる…?  
ドキドキが止まらない時間旅行ファンタジーです!





### 『生き方』

稲盛 和夫／著（サンマーク出版 2004年出版）

稲盛氏の生き方をはじめ、一連の著書には、仕事への取り組み方、人はいかに生きるべきかなど、仏教の教えに深く基づくものである。

利他のところ、知足の教え、ただひたすら愚直に生きる、また、リーダーは誰よりも「徳」であるべきなど…私たちが学ぶべきことだと思います。

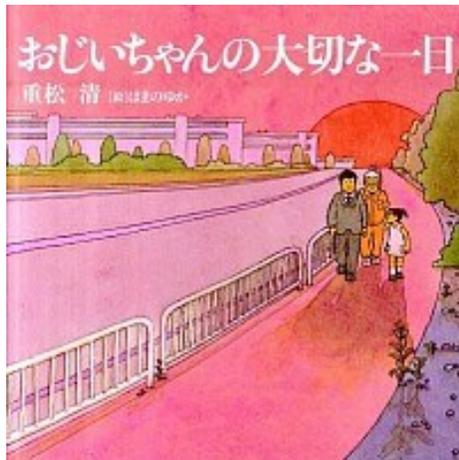
### 『3万円からの民泊投資術』

高橋 洋子／著(WAVE出版 2016年出版)

外国人旅行客増加とホテル不足の今こそ、民泊を始めるチャンス！ということで興味をひかれて読みました。

稼ぐことだけでなく、英語の勉強、国際交流までできるなど、民泊の魅力満載。

また、未然にトラブルを防ぐ方法も掲載されていて、夫婦でも学生(!)でもできる、優しい民泊入門ガイドだと感じました。



### 『おじいちゃんの大切な一日』

重松 清／著 はまの ゆか／絵（幻冬舎 2011年出版）

重松清作品が児童書に並んでいるというだけで読んでみました。和風絵本家というテレビ番組を思わせますが、職人技を紹介するだけのものではありません。祖父の仕事(場)を通して一人の人生を考えさせられるものです。また、この本はある工作機械メーカーの個人の依頼でつくられた本であることに驚きでした。

みなさんも読んでみてください。

### 『今日の人生』 益田 ミリ／著(ミシマ社 2017年出版)

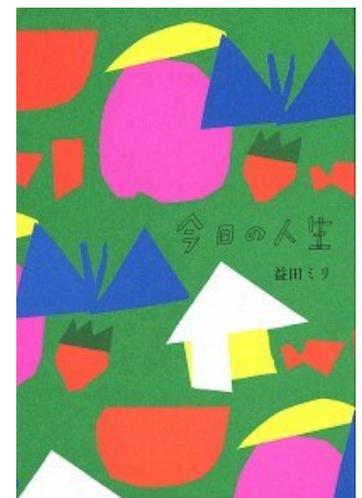
癒しを求めているみなさん、コミックエッセイはいかがですか。ミリさんの「今日の人生」にほっこりしたり、くすっと笑えたり、共感したり、しみりしたり…。何気ない小さな今日の積み重ねが、愛おしく感じられるような…そんな優しさを感じる一冊です。

本を読むということは、どういうことか…も描かれています。

また、この本は、装画の美しさに目を引かれるのですが、なんとこれはミリさんが子供の頃に作った切り絵が採用されているとのこと！大島依堤亜(いであ)さんの装丁も素晴らしく、ページが色で分かれており、随所に工夫がされていて隔々まで楽しめます。

読後私は、「という今日の人生」をつけて、楽しんでいきます。例えば、「洗濯機が壊れた〜と焦っていたら、コンセントがはずれていただけ、という今日の人生」みたいにな…。

みなさんも、本を読んで人生を自分なりに楽しんでください。





『Little Selection あなたのための小さな物語 15  
日本語ということば』  
赤木 かん子／編(ポプラ社 2002年発行)

もともと、中高生向けに編まれた短編集ですが、大人が読んで也十分に楽しめます。収録されているのは、橋本治や寺山修司らのエッセイや考察の文章。発音や、文法、言語学…と、聞くと、国語の授業を連想して、「うわぁ…難しそう…」と読むのを止めたくなくなってしまうかもしれませんが、エッセンスとして香ってくる程度で、サクッと読めて、普段話している言葉の違った面を発見できます。

ラストに載っているのは、小学2年生の女の子が書いた作文【「あまえる」ということについて】です。内容は、平たく言えば、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』についての読書感想文。主人公のゴーシュと、女の子自信の辛かった幼稚園時代の心と行動を照らし合わせて、物語の意味と、女の子がこれからどういう風にかんばって行けば良いか、が、立派に論じられています。

この本の中で、この文章だけでも読んでいただきたいのです。私は、読んで泣きました。日本語についての本でまさか泣くことになるとは…！お子さんがいらしたり、教育に携わる方々に、強くオススメします！